

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】」（素案）に対する 道民意見提出手続（パブリックコメント）実施結果の概要

1 実施期間

令和4年(2022年)12月5日から令和5年(2023年)1月4日まで

2 提出者数及び件数

5名、1団体から延べ21件

分類	件数	分類	件数
基本的事項に関すること	1	新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組に関すること	1
道立病院の現状と課題に関すること	0	経営の効率化に関すること	2
道立病院が果たすべき役割・機能に関すること	7	一般会計負担金の算定の考え方に関すること	0
医療従事者等の確保対策に関すること	8	収支計画及び数値目標に関すること	0
機能分化・連携強化に関すること	2	計画の点検・評価、公表等に関すること	0

3 主な意見

(1) 基本的事項に関すること

- 単に経営効率のみを追求するのではなく、地域住民要望の実現や病院職員の負担軽減に留意してほしい。

(2) 道立病院が果たすべき役割・機能に関すること

- 江差病院は南檜山圏域の「地域センター病院」ですが、常勤医が不在となっている診療科もあり、現状のままであれば、その役割を果たすことができなくなる。今後においても「地域センター病院」としての役割を果たせるよう、医師の確保に全力を傾けるべきと考える。
- 緑ヶ丘病院の経営課題の追及にあたっては、圏域の人口推計だけではなく、精神医療における疾患別の調査をはじめ、年齢層や地域性などを加味した分析なども大切ではないでしょうか。

(3) 医療従事者等の確保対策に関すること

- 地域医療構想における必要病床数では、急性期病床から回復期病床へとシフトを進め、病床の総数も減少させていく見込みであり、継続的に医師確保をしていくことができるのか疑問がある。
- 経営改善には、医師の確保は最優先事項であり、プラン策定とともに医師の増員に取り組んで頂きたい。

(4) 機能分化・連携強化に関すること

- 江差病院が関係する医療連携推進法人南檜山メディカルネットワークの機能分担では、連携病院の機械的な病床削減は行わないでほしい。

(5) 新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組に関すること

- 新型コロナウイルス感染症が経営に与えている影響が大きいことは理解する。感染症対応が可能な病院が道立病院のみの地域もあり、その役割は重要と考える。

(6) 経営の効率化に関すること

- 患者数の確保、新規患者の掘り起こしにあたっては、地域が求めている診療科や診療体制の強化についても検討してほしい。

4 意見の反映状況

区 分		件 数
A	意見を受けて素案を修正したもの	0
B	素案と意見の趣旨が同様と考えられるもの	4
C	素案を修正していないが、今後の施策の進め方等の参考とするもの	17
D	素案に取り入れなかったもの	0
E	素案の内容についての質問等	0